

# 作戦とリフレクションで勝つ「協働型体育」

高遠中学校で公開していただいたのは、1年生のフィルダー・ベースボールの授業です。

授業が始まると早速チームミーティングが始まりました。チームミーティングでは今日のチームの「めあて」と達成するための手立てが話し合われました。

試合が始まると、先生は個人やチームの「めあて」に応じて声かけを行いながら指導をしていました。

授業の振り返りでは、次の時間の「めあて」が班で共有できているかを確認し、声かけを行ったりスクールタクトに先生からのコメントの書き込みを行っていました。

## 授業研究会では

授業研究会では子どもたちの技能的課題とチーム課題が授業の振り返りにどのように活かされているかが話題になりました。

この単元では、子どもたちが課題を設定し、解決策を思考し、練習し、ゲームの中で試し、そして新たな課題を見つけて次の活動へつなげていくというサイクルを回すことが考えられています。

### 1. 技能的課題（個人的な課題）の活用

課題の明確化と深化:

・個人の振り返りカードが使用され、生徒にはなるべく技能のことを書いて欲しいと先生は指導されています。



・振り返りを通じて、子供の当初の願いがより具体的な技能的課題へと変化します。例えば、ある生徒（Mさん）は当初「打球を遠くまで飛ばしたい」という願いを持っていましたが、ゲーム後の振り返りでは「あまり打てなかったけど取りにくいボールを打ちたい」という、より戦術的で具体的な技能的課題へと変化していました。

・先生は、生徒が書いた内容に対してコメントを行うことで、個人の技能的な振り返りをフォローしています。

先生による学習活動の整理

・子供たちの「頑張りたい」といった抽象的な目標に対して、先生が学習指導として、学習活動が成立するように後付けを行っています。例えば、打つ人の角度によって守備位置を変えるなど、学習としての意味付けを行っています。

### 2. チーム課題の活用

あるグループでは、「楽しんで10点を目指して頑張ろう」という目標をチーム課題として掲げていました。また、文字として記録されていなくても、ある女子のグループでは、ゲーム直前に「キャッチね！キャッチ！」と繰り返し、守備においてサークル内の子供たちがボールをキャッチすることに意識を集中させるという、共有された意図（チームの焦点）が見受けられました。



## 単元を通しての活用（リフレクション）

【スクールタクトは、単元全体を通じた学びを深めるために利用】

・リフレクション（振り返り）場面の構築：1時間ごとの振り返りはもちろん、単元を通してリフレクション場面をつくるためにスクールタクトが活用されます。

・技能ポイントの確認：お手本動画を用いて、技能ポイントを確認するために活用されます。

・自己分析：バッティング練習においては、自己のフォームを動画で撮影し、分析の材料として使用されます。

・個別最適な学びと協働的な学びの支援：生徒が試したゲームから得られた自己の課題に応じて練習内容や場を選択する「個別最適な学び」の場面や、チームで課題解決のために考え合う「協働的な学び」の場面を設定する際に、これらの活動をデジタルツールが支援しています。

授業の詳細はTeams「InaWaku2025授業づくり」参照

高遠中学校 原 拓也 先生の授業と研究会の様子を推進センターでまとめさせていただきました

伊那市学校教育情報化ビジョン2024